

健康大学生における心胸郭比の検討

金沢大学保健管理センター 元 田 憲

金沢大学医学部第二内科 杉 原 範 彦

金沢大学保健管理センター 中 越 伸 子 赤 池 幸 子 木 場 深 志
野 村 進

健康診断の際、普遍的に行われる健康人のCTRがどのような因子に左右されるかを検討することを目的とした。

対象および方法：昭和59年度、本学現役男子入学者、計577名を対象とした。

胸部X線写真、身長、体重、血圧の成績は昭和59年5月に行われた健康診断の成績を用いた。胸部X線写真はすべて6×6cmの間接撮影であり、心横径、胸郭径値はその実測値を用いた。対象者全員にスポーツが好きかきらいか、中学、高校時代に運動系の部活動を行っていたかどうか、また選手とし活躍していたか否かをアンケート調査した。アンケート回収率は83.7%(483名)であった。

結果：577名のCTRは平均42.3%をピークとした正規分布を示し、50%以上の心拡大を認めた症例は11例、2%であった。平均血圧(全員正常血圧)、身長に関しては有意な関係はなかったが、体重とCTRでは体重増加に伴いCTRが増大する傾向を認めた。

肥満度 $=$ (体重) $/$ {身長 $-$ 100} \times 0.9 \times 100%との関係ではやせ型より筋肉質になるにつれCTRが増大した。また、心横径、胸郭径も同様の傾向を示した。

スポーツとの関係ではスポーツが好きな群(44%)はきらいな群(42%)に比しCTRの最頻度値は大であった。また、スポーツ選手として活躍した群(a群)は全くスポーツを行わなかった群(b群)に比しCTRの最頻度値は大であった。(a、43%：b、41%)が、両群間に有意差は認められなかった。またa群はb群に比し心横径、胸郭径、体重のいずれも大であった。以上からスポーツマンは体格的に大きく、より筋肉質であり、それにみあって心横径が大きくなっているものと判定した。

結果：以上、CTRの判読に際しては、少なくとも胸郭径、体重、スポーツ歴を充分考慮して判定すべきものと結論した。